

はじめに

日本規格協会では、品質問題解決能力の向上を目指し品質管理検定（QC 検定）2 級を受検される方々への教材として、『過去問題で学ぶ QC 検定 2 級』を発刊してきました。受検された多くの方々にとって、受検準備の一助になったのではないかと考えています。しかし、受検準備の際、どうしても手法の勉強に比重がかかっている方も多いのではないのでしょうか。3 級に対して 2 級は、手法に関する理解の要求が高くなり、特に、SQC の問題がより専門化します。とはいえ、問題のほぼ半数は“品質管理の実践”分野からの出題であり、受検準備を怠るわけにはいきません。

本書は、これまで発行した『過去問題で学ぶ QC 検定 2 級』に収録された QC 検定 2 級の実践分野の過去問題を抜粋し、再編集したものです。受検準備にどうしても手法に時間を費やしてしまう、しかし、効率的に実践分野の受検の準備をしたいという方々への教材として本書を企画いたしました。

本書は、実践分野の過去問題を QC 検定レベル表（2 級）に示された分野ごとに分類し、各分類において出題のポイントを把握できる問題を数題選出して掲載しています。章節項は分類に対応して編集されており、分野ごとに、概要解説、出題のポイント、選出した問題とその解説という構成になっています。

実践編であることから、ポイントとなる問題の選出、また、該当分野の概要解説、出題のポイントの執筆は、QC 検定過去問題解説委員会の産業界の委員が行いました。問題解説の部分は、新たに書き下ろした部分もありますが、ほとんどは『過去問題で学ぶ QC 検定 2 級』の問題解説を再録しています。

QC 検定対策の図書の『品質管理の演習問題と解説』シリーズは、“手法編”に限定されており、“実践”分野に特化した図書は発刊されていません。本書が、手法の受検準備に加えて、実践分野の受検準備を効率的に行いたい方々の教材としてお役に立てば幸いです。

2021 年 1 月

QC 検定過去問題解説委員会
委員長(監修) 仁科 健

QC 検定過去問題解説委員会名簿

委員長(監修)	仁科 健*	愛知工業大学 教授
副委員長	石井 成	名古屋工業大学大学院 助教
	川村 大伸	名古屋工業大学大学院 准教授
委員	五十川道博*	元 株式会社デンソー
	板津 博典*	株式会社東海理化
	伊東 哲二*	元 トヨタ車体株式会社
	入倉 則夫*	あとりえ IRIKURA
	大岩 洋之*	株式会社豊田自動織機
	小野田琢也*	株式会社青山製作所
	古藤判次郎*	小島プレス工業株式会社
	小林 久貴*	株式会社小林経営研究所
	牧 喜代司*	トヨタ自動車株式会社
	永井 幹人*	一般財団法人日本規格協会

(順不同, 敬称略, 所属は執筆時)

* 本書の監修・執筆にあたった委員

目 次

はじめに

QC 検定過去問題解説委員会名簿

品質管理検定（QC 検定）の概要 7

	《概要解説》	《問題》	《解説》
第 1 章 品質管理の基本 ……………	26	29	196
(QC 的なものの見方／考え方)			
第 2 章 品質の概念 ……………	34	39	202
第 3 章 管理の方法			
3.1 維持と改善, PDCA・SDCA, 継続的改善, 問題と課題 ……………	44	48	210
3.2 QC ストーリー ……………	51	56	215
第 4 章 品質保証—新製品開発—			
4.1 結果の保証とプロセスによる保証, 品質保証体系図, 品質保証のプロ セス, 保証の網(QA ネットワーク) ……	62	67	224
4.2 品質機能展開 (QFD) ……………	70	74	230
4.3 DR とトラブル予測, FMEA, FTA ……	76	80	235
4.4 製品ライフサイクル全体での 品質保証, 製品安全, 環境配慮, 製造物責任 ……………	82	85	239
4.5 初期流動管理 ……………	86	89	242
4.6 保証と補償, 市場トラブル対応, 苦情とその処理 ……………	90	93	244

第5章 品質保証—プロセス保証—

5.1	プロセス（工程）の考え方， QC工程図，フローチャート， 作業標準書 ……………	96	101	248
5.2	工程異常の考え方とその発見・処置	104	107	252
5.3	工程能力調査，工程解析 ……………	109	112	255
5.4	変更管理，変化点管理 ……………	116	118	260
5.5	検査の目的・意義・考え方， 検査の種類と方法 ……………	119	123	262
5.6	計測の基本，計測の管理， 測定誤差の評価 ……………	127	132	267
5.7	官能検査，感性品質 ……………	134	137	272

第6章 品質経営の要素

6.1	方針管理 ……………	140	145	276
6.2	機能別管理 ……………	150	153	285
6.3	日常管理 ……………	154	156	287
6.4	標準化 ……………	160	163	293
6.5	小集団活動 ……………	167	171	299
6.6	人材育成 ……………	174	176	303
6.7	診断・監査 ……………	177	180	305
6.8	品質マネジメントシステム ……………	181	184	307

第7章 倫理／社会的責任 …………… 188 191 316

※ 本書はQC検定レベル表マトリックス（実践編）に基づき目次を構成していますが，一部本書独自の分類により出題分野をまとめています。

品質管理検定（QC 検定）の概要

1. 品質管理検定（QC 検定）とは

品質管理検定（QC 検定／<https://www.jsa.or.jp/qc/>）は、品質管理に関する知識の客観的評価を目的とした制度として、2005年に日本品質管理学会の認定を受けて、日本規格協会が創設（2006年より主催が日本規格協会及び日本科学技術連盟となる）したものです。

本検定では、組織（企業）で働く人に求められる品質管理の“能力”を四つのレベルに分類（1～4級）し、各レベルの能力を発揮するために必要な品質管理の“知識”を筆記試験により客観的に評価します。

本検定の目的（図1）は、制度を普及させることで、個人のQC意識の向上、組織のQCレベルの向上、製品・サービスの品質向上を図り、産業界全体のものづくり・サービスづくりの質の底上げに資すること、すなわちQC知識・能力を継続的に向上させる産業基盤となることです。日本品質管理学会（認定）や日本統計学会（2010年度統計教育賞受賞）などの外部からも高い評価を受けており、社会貢献度の高い事業としても認識されています。

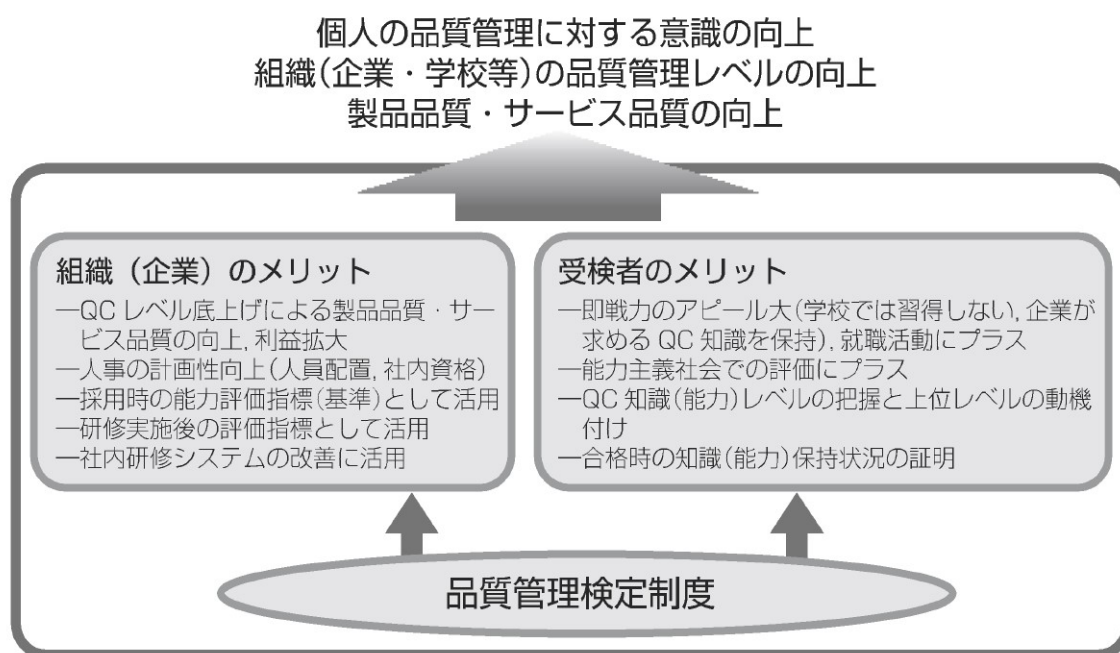


図1 品質管理検定制度の目的と組織（企業）・受検者のメリット